



認識から行動へ： 持続可能な食の未来をつくる ための課題

SDG 12を支援する政策
から実践への提案

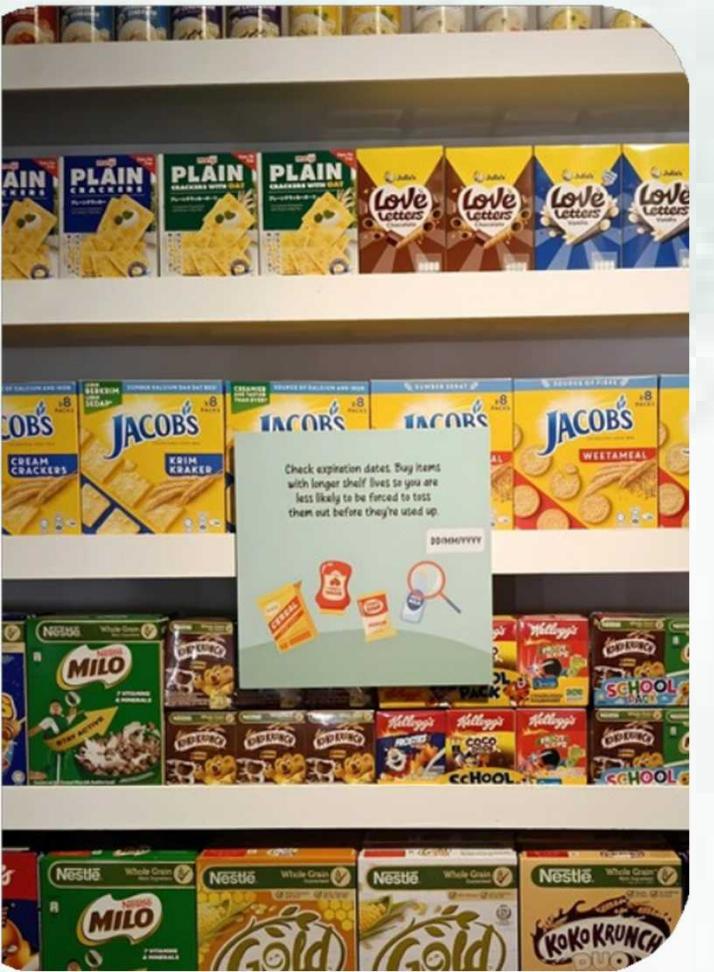


指導講師: オング・ツ・チン博士

作成者:

1. ヤップ・メイ・シン
2. チャン・ユエット・リヤン
3. フェザワティ・アブドゥル・モハメド・イブヌ

実践状況





ReMeal

Don't Waste It.
ReMeal It.

An app to find surplus food from Cafes, Bakeries, Supermarkets, and Restaurants at discounted prices!

Malaysia's #1 food surplus app 

 Download on the App Store  GET IT ON Google Play



2025年6月
ガーデンモールグリーンムーブ
ロードショー 

スーパーマーケットチェーンと地方議会を巻き込み、消費者に持続可能な消費習慣を促した。賞味期限の長い食品を選び、プラスチック包装を避ける意識を高めた。

2024年にリリース
マレーシア初の余剰食品アプリ

食品ロス削減のため、地方自治体DBKLと提携した。公立・私立大学(Taylor & UiTM)の学生と協力し、意識向上に努めた。2025年3月には、マレーシア全州のラマダンバザールから約70トンの余剰食品を回収した。

2025年1月
マラヤ大学スマートエンジニアリング・
持続可能な都市農場

化学工学棟の屋上には、アクアポニックガーデンがある。レタス、ほうれん草、ハーブ、ハリナシミツバチ、そして魚を栽培している。このシステムは、太陽光発電、雨水利用、そして有機廃棄物の敷地内堆肥化を統合し、持続可能な食料生産と循環型資源の利用を促している。

廃棄物管理

マレーシア住宅地方自治省(KPKT)は、マレーシアにおける固体廃棄物の循環経済構想(2025~2035年)を発表した。

持続可能な生活のための日常の行動

個人としてできること



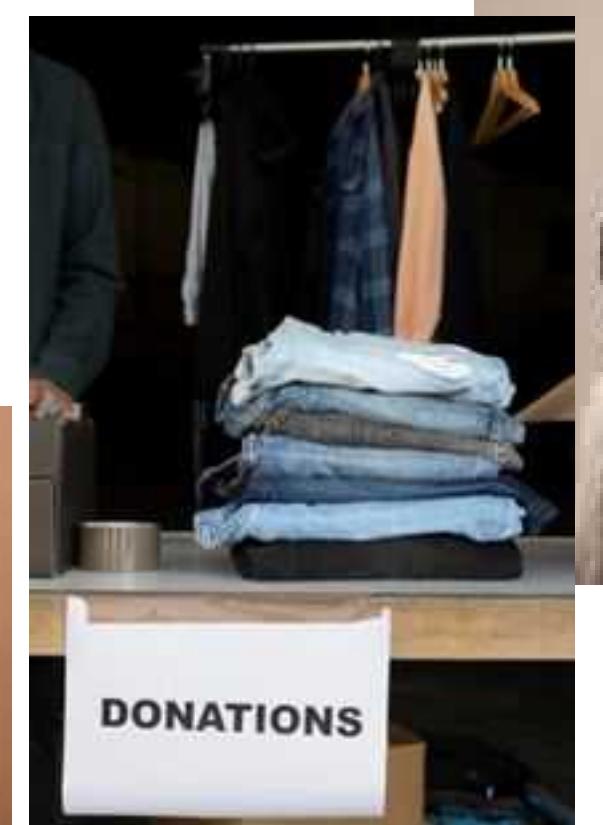
● 廃棄物の削減

- ・プラスチックフリーの買い物を毎日の習慣にする
- ・冷蔵庫は毎週チェックし、古い食品から優先的に消費する
- ・「先入れ先出し法」を活用し、すでに保存してある食品を消費する
- ・食品ロスを減らすため、小分けにして提供する
- ・必要な分だけ購入し、現実的な分量で調理して消費する



● 教育・意識向上

- ・家庭や学校で、子どもたちに食べ物を残さず食べるように教える
- ・学生にグリーン農業、堆肥化、ゼロウェイストプロジェクトを主導するよう奨励する（マラヤ大学のグリーン農業イニシアチブに着想を得た取り組み）



● 再利用・持続可能な消費

- ・マイボトル、容器、バッグなどの再利用可能な個人用アイテムを持参する
- ・洗濯済みで状態の良い衣類を集める衣類を回収する取組に参加する
- ・自治体が設置している場合は、学校、アパート、村などで堆肥化施設の設置を支援する



提言

企業の役割



企業は持続可能性の取り組みにおいてより積極的な役割を担い、都市中心部だけでなく郊外や田舎の地域にも活動を拡大できる。



1. 企業向け技術ソリューション

Kitchie のような食品廃棄物アプリを開発し、安全な寄付・記録管理・承認手順のための標準操作手順を備えた食品余剰プラットフォーム (ReMeal など) を拡大する。



2. 啓発キャンペーン

企業とショッピングモールが連携し、SDG 1 2 の推進を目的とした年次ロードショー、コンテスト、ツールキットを実施し、郊外や農村地域への取り組みを拡大する。



3. グリーンファイナンス

企業は、製造から生産、廃棄までの全サイクルを網羅した持続可能性報告を実施し、リサイクル可能な素材や再利用可能な商品（スターバックスのアップサイクルポーチなど）を推進し、フードバンクや都市農業などの ESG プロジェクトにスポンサーシップや寄付を促進すべきである。



食品廃棄物ピラミッド

防止

6R

Refuse (断る) , Reduce (減らす) ,

Reuse (再利用する) ,

Repurpose (転用する) ,

Recycle (リサイクル) ,

Rot (堆肥化する)

廃棄

1. 残飯管理方針

- 「6R」の原則に従い、防止を最優先し、回収と再分配を促進する。

2. 政策の実践

- 政策の実施状況を検証・監視し、全国すべての産業分野での確実な導入を確保する。
- SGD 12の意識啓発を小学校レベルから学校カリキュラムに組み込む。

3. グリーンファイナンスのインセンティブ・補助金

- 売れ残り食品を慈善団体に寄付する企業への税額控除を実施する。
- 食品回収ネットワーク、フードバンク、再分配プログラムへの資金提供。
- コールドチェーンインフラ投資に対する税収返還を実施する。

SDG 1 2に関する今後の展望について

2030年までに期待される成果

- 全国で食品・プラスチック・繊維廃棄物を30%削減。
- 自治体と地域社会の連携により、学校、集合住宅、村落に100か所以上の堆肥化拠点が設置される。
- 2023年以降の急速な成長を基盤にして、2030年までに中小企業（SME）におけるESG導入率が80%を超える。
- 日常的なプラスチックフリーの習慣と、衛生的な中古の衣類の再利用により、持続可能なライフスタイルが主流となる。
- 小学校のエコクラブから大学のプロジェクトまで、全レベルでSDG 1 2の教育を組み込み、卒業生全員が実践的な持続可能性の経験を持つことを保証する。

「教育、企業の社会的責任、政府の政策によって強化された日々の小さな行動を通じて、マレーシアは2030年までにSDG 1 2の地域モデルになることができる。」

ありがとうございました